

# 「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

1 / 2

団体名	テオプロジェクト -Theodorus Project-			
事業名	小樽の歴史普及事業「小樽を変えた21日展」			
実施期間	令和4年12月5日から令和5年1月20日			
事業の目的及び期待する効果	<p>目的：防波堤の完成、北海道初の鉄道開通、小樽運河の完成と埋立ての対立、語り尽くされた小樽の歴史を、現代の作家たちが違う角度から再び照らし、今まで興味を持っていなかった人に向けて、小樽の歴史が持っている魅力を発信する。</p> <p>効果：小樽の歴史や文化をコンテンツにした作品や展示企画がもっと頻繁に開催され、発表のしやすい雰囲気、「挑戦できる街・小樽」という空気を作り、小樽への愛着や郷土愛を育む。また、日本遺産のストーリーや市内の文化施設へ誘導するきっかけにしたい。</p>			
実施額	事業費	262,464円	助成額	201,964円
事業内容	<p>【仕込み】「小樽での重要な出来事」を73個リストアップし、SNSなどを活用してアンケート調査を実施。1人につき最大10票を投じてもらい、約20人からの回答を得た。一番多かったのは「小樽運河保存運動について」10票、「鉄道について」が9票などで、上から21個を選定した。</p> <p>【検討】小樽での歴史イベントを21個選んだので、次に、ライターチームで「その歴史を、どの日付で、どこに注目して切り取って紹介するか」を考えた。</p> <p>・ライターチーム 小樽商科大学 学生ブログスタッフ3名、小樽商科大学2年船戸晴名、盛合将矢</p> <p>【取材、言語化】図書館で資料を集めたり、当事者にヒアリング調査を実施。不明な部分については関係機関（おたる水族館、澁澤倉庫、青山別邸、ウイングベイ小樽、日本銀行札幌支店など）に直接取材を行った。また、展示する写真についても素材提供を依頼し、足りない写真素材は市立図書館や総合博物館に依頼した。</p> <p>【間違った歴史を伝えない為に、確認】原稿と紹介する写真が完成したのち、各関係団体や博物館の学芸員に間違いが無いか確認を依頼。細かいニュアンスなどについて複数のチェックが入り、修正を加えて作り直し、再度確認を依頼して完了した。</p>			

\*この作業の最中に、写真の確保と原稿チェックが間に合わないコンテンツがあったため、「小樽を変えた21日展」から日付を減らし、「小樽を変えた20日展」に変更。商大ブログスタッフが書いた原稿も書き直した。

【歴史を伝えるデザイン】原稿のチェックを依頼していると同時に、チラシやパネルデザインの製作に着手。「心臓」をモチーフにしたデザインを選択した。

小樽を変えた20日展～ポンプポンプヒストリー～

会場：ウイングベイ小樽5番街4階

時期：2022/12/5～12/25（\*好評につき1/20まで延長した）

\*内容については「小樽の地域情報サイト - まいぷれ」にも掲載された。

【歴史の普及活動】パネルで紹介した内容をパンフレットにして500部作成。会場で配布し、残りについては、運河プラザや市内飲食店などで無料配布をしている。

【日本遺産をもっと身近に、アート展「7人の心臓展」】企画を進めていく段階で「ウイングベイ小樽の映画館からボーリング場までを繋ぐ壁面スペースも使ってよい」と、ウイングベイ小樽の担当者から言われた事で、事務局に相談をしながら「7人の心臓展」を企画。

小樽市が文化庁に申請している「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」から着想を得て、「心臓」をテーマとした作品の製作を小樽近郊の6人の作家に依頼した。この展示をきっかけに「北海道の心臓のストーリー」への興味を促し、小樽市単独の日本遺産の認定の後押しになればと考えている。

◆添付資料

- ・イベントチラシ
- ・パンフレット

○内容が分かる「資料やチラシ等」を添付してください

月日	内容	想定事業効果 (参加人数等)	事業効果 (実績)
8/10~8/20	小樽を変えた歴史について アンケート調査	20名	//
12/5~1/20	小樽を変えた20日展 ~ポンプポンプヒストリー~の実施	約5,000人 *平均して1日100人の の通行人で計算	//
12/19~1/20	7人の心臓展の実施	約3,000人	//

## ◎事業評価について

### 1. 事業の目的の達成度

小樽の歴史はボリューム感があり、様々な物語が複雑に絡み合っていると思います。それを市民へのアンケート調査という形で約70個から「小樽の歴史を作った重要な出来事」を選んでもらい、それを「日付」として並べたことで、小樽には元々港があり、鉄道が敷かれ、倉庫が出来て、銀行が集まりだし、北海道初の営業倉庫が作られ、小樽運河が誕生し、日本銀行が小樽支店に切り替わり、日露戦争に突入した。と、小樽の歴史をこのように単純化した事と、それを伝えられた事について、まずは達成感を持っています。

また、数年前から推進していた日本遺産について、パネルやパンフレットを作っても「北前船」「炭鉄港」「心臓」などのストーリーがなかなか浸透していなかったと感じていますが、それぞれの作家が「心臓」をテーマに作品を手掛けたことで、今までとは違った角度から関心を集められたと感じています。

しかし、それぞれの展示について正確な来場者数、効果を図るための明確な基準を設けていなかったため、検証する方法が少なく、関係者の体感で得た経験値などが多くを占めてしまった事が大きな課題と認識しています。

### 2. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

SNSでの反応を見してみると、「小樽ってこんな凄い町だったんだ」と誇らしい気持ちになったという投稿があり嬉しくなりました。また、「内容が良いから、もっと目立つところで飾って欲しい」などの反応もあった事から、好意的に受け入れられた印象を持っています。

また、札幌から来た知人からは「小樽ってこんな歴史があったんだね」という連絡をわざわざくれました。更に、企業側からも「20日の中に選んで頂き光栄です」という反応がありました。

心臓展の方では、武蔵野美術大学を卒業し、現在は東京で活動する佐藤Tさんと言う小樽出身の画家にも参加していただき、「心臓」をテーマに作品を書いてくれました。2023年4月には東京で個展を開催予定で、その際に心臓展で飾った作品も展示する予定と聞いています。現役商大生で油彩画を書いている学生にも参加してもらい、他の作家との横のつながりが出来たことで、次の新しい企画が生まれる可能性も出始めています。

### 3. 今後の事業について

小樽の歴史をまとめたり発信したりする機会や団体は多いと感じているので、小樽の歴史をエンタメ化しつつ、歴史をもっとPOPに伝える工夫をしていきたいと考えています。

また、2022年3月に小樽の文学と芸術をまとめた同人誌RAINを発行したので、2023年には第二号の発行をするために、準備を進めます。